

エドウィン・ダン記念館

この建物は、旧北海道庁真駒内種畜場事務所の一部であり、明治9年開拓使牧牛場として、エドウィン・ダンにより創立されました。その後、北海道の酪農畜産は、この建物を中心として発展しました。

昭和39年、有志はこの由緒ある建物が解体されるに忍びず、エドウィン・ダン顕彰会（現在はダンと町村記念事業協会）により現在地に移築され、関係資料を展示することにしました。

その後、老朽化のために改修工事を行い、平成15年5月にリニューアルオープンしました。この記念館には、ダンの業績を描いた一木万寿三画伯の絵画や開拓初期の写真、種畜場模型などが展示されており、平成2年には、札幌市の「ふるさと文化百選」に選ばれ、同12年に国の「登録有形文化財」に指定されました。また、同19年にはエドウィン・ダン記念公園と一体として「札幌市都市景観賞」を受賞しています。



▲エドウィン・ダン記念館の外観



▲記念館内部の様子▼

場 所 真駒内泉町1丁目（エドウィン・ダン記念公園内）

開 館 夏季：4月1日～10月31日（休館日は毎週水曜日）
冬季：11月1日～3月31日（金・土・日曜日のみ開館、
年末年始は休館）

時間：午前9時30分～午後4時30分

入場料 無料

詳 細 エドウィン・ダン記念館 ☎581-5064



酪農王国の基礎を築く

明治十一年には、牧牛場もようやく牧場としての体裁が

畜場）を開く場として真駒内を選定し、直ちに建設に取り掛かりました。やるべきことは山のようにありました。畜舎やその他の家屋の設計、牧柵の測量、各種農機具の調整、種子の購入はもちろん、他の事業も実際に指揮監督しなければなりません。ダンは熱意を持ってこれに当たり、一つ一つ成し遂げていきました。特に力を注いだ真駒内牧牛場は、真駒内川から精進川までの約百ヘクタールのうち、畑三十二ヘクタールを開墾。約五キロメートルの牧柵を設け、約六十頭の牛と若干の豚を入れて、同十年の秋に開場しました。

また、真駒内川の上流から用水路を掘って家畜管理用の水を確保し、その流れを利用して水車を設け、肥料や飼料の粉碎ができるようにしました。約百三十年前の用水路は、今でも同じ場所を水が流れています。

整い、品質の良い牛が繁殖できるようになりました。また、バターやチーズ、粉乳の製造も開始され、同年の第二回国内勸業博覧会に出品して賞を受けています。同十二年には、耕地面積は八十一ヘクタールに及び、百三頭の牛と十二頭の馬、四十七頭の豚が飼育されるまでになりました。

しかし、同十五年、開拓使が廃止されたことから、牧牛場をはじめ、各地の牧場は農商務省に属することとなり、ダンもその年の十二月に北海道を去ったのでした。

短い期間でしたが、ダンの残した業績は非常に大きく、各地の牧場の創設や家畜の育成普及、技術者の養成、バター、チーズ、ハム、ソーセージの製造、各種農作物の栽培指導など挙げれば切りがないほどでした。そして、この時において、北海道酪農の礎石が据えられたのでした。

★ ★ ★

エドウィン・ダンの業績は、身近にある上記の記念館で見ることが出来ます。ぜひ一度訪れて歴史の跡をたどってみてはいかがでしょうか。

